令和４年度　第２号
５月１９日（木）

所沢市立美原中学校

学校だより No２

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

一隅を照らす者（行い）、これ国宝（位尊いと知る）なり　２

今回の学校朝会では、シリーズものの話になります。【令和３年度学校だより１月12日発行第11号参照】「一隅を照らす者、これ、国の宝なり」のシリーズです。【 意味は、上記に記載参照 】 ↑「職員室前再掲示」

さて今日は、各学年とも行事や大会が近づいてきましたので、そこに触れてお話したいと思います。この間 2 年生の学年朝会を見させてもらいました。見どころは、生徒たちの活動で、各クラスの曾長が決まり、意気込みを述べるところです。曾長は、皆をまとめるリーダーです。重要な仕事です。クラスの一人一人の生徒は、「オー」と言うリアクションでいいわけです。私が触れたいのは、あの一人一人の拍手が各係や分担された一隅に値する仕事だったらと、捉えて考えてみてはどうでしょうかというか、ということです。どの仕事もなくていいものなどなく、難しいリーダーの仕事も大事、各個人に割り振られた仕事も大事と考えます。それとは、逆にリーダーの仕事に精一杯取り組んでいるのに、そのクラスの生徒が応えなかったり、各自が担当した仕事を一生懸命取り組んでいる人をリーダーが尊重しなかったら組織としての仕事は、成立しません。2 年生のしおりにも書かせてもらいましたが一つのグループや仲間、クラスなど組織の形態は、様々ですが学校の存在意義は、組織や様々な人間模様の「学び」の機会を得られる場所というところです。

学校での「学び」は、社会で生きるために必要な学びです。それは、大きく考えると２つに考えられると思います。1 つ目は、いわゆる授業で学ぶことを中心に考えた「知識的な学び」。もう一つは、学校というコミュニティの中で「人間関係」を学ぶことです。現代では、知識は、ネットをはじめ多くの機会で学ぶことができます。しかし、現実の生活の中で学ぶ人間関係の経験は、人と面と向かって接することで悩んだり、苦しんだり、時には、傷つくこともある現実感の伴ったもです。その中でコミュニケーションの方法や相手との距離のとり方を経験値として学んでいきます。私は、コロナの流行や学校にあまり足が向かないことで、失われる大きなものの一つだと思います。しかし私は、学校を離れたり卒業したりしても、学校以外の社会コミュニティでも人間関係の中で学ぶ経験があればよいと考えます。しかし、学校以外でこの人数で体験をすることは、簡単なことではありません。ですからこの貴重な経験を体験できる学校で人間関係を学ぶ機会を大切にしてほしいのです。

ここで私が、一隅（自分の仕事）を照らすことだなと感じたことを、ひとつお話しします。先日、行われた通信陸上の市内予選中央中会場で行われたもの

です。自分の出場種目を一生懸命取り組んでいたのは、素晴らしいことですが、自分以外の仕事として順番や出場コールのことを手伝うマネージメントの仕事をする生徒や美原中学校に割り振られたスターティングブロックの移動（素早く動かす仕事）を見事にやっていたという仕事ぶりです。私は、中体連運の営役員として本部にいた時間が長いので、本部にいる先生方から「よくやっているな」という声が聞こえてくると、うれしく誇らしくなります。まさに一隅を照らしていると思うのです。

また、3 年生が最近の様々なことを踏まえ、生活委員会の取り組みで「クラスの学年の仲間の善いところ」を見つけ「いいとこもちもち心の木」という取り組みを始めています。これは、一隅に気づく人を育てる取り組みです。直接良くないことを示しなくしていく活動も大切ですが、そのような中でも前向きな活動でよい人間関係を築いたり、人の自己存在感・有用感を育んだりと意味深い効果が期待されます。

更に 3 年生の学級委員の前期の目標を「Ride on the wave ～全員が笑顔で次のステージへ成長できる努力をしよう～」となっています。「努力は、努力でもゴールを見越した努力をしてほしい。（途中略）それに続いて小さい目標でも大丈夫です。何か一つでも目標を決め、行動にうつしてください。それによって自らが動くことができるようになり、学年の成長にもつながると思います。」と言っています。まさにこれは、一隅を照らすことであり、理解することであるということです。これは、素晴らしい目標だと思います。この 3 年生の取り組みのもと、1 年生の校外学習、2 年生の林間学校、3 年生の修学旅行、学校総合体育大会など多くの機会で、美原中の生徒がコロナをはじめ大きな困難の波を力強く乗り越えてほしいと願っています。

校長見聞録　PTA 総会並びにおやじの会理事会に出席して想うこと

5 月 12 日（木）の午後に体育館にて令和 4 年度の PTA の総会が実施された。また 5 月 14 日（土）には、おやじの会の理事会を 19 時から、続いて毎月第 2 週土曜日に行われる地域のパトロールが実施された。どちらも生徒のバックアップのためにある団体である。PTA は、現在の保護者の方を中心とした組織で Parent Teacher Association の略であり、おやじの会は、今年で創立 19 年目迎える組織である。更に美原中学校後援会は、昨年の西門のカーブミラーにもご協力いただいた組織である。6 月は、各組織の総会がある。ここで事業報告、事業計画と決算報告と予算計画、更に前年度役員の解任と新役員の承認等と進んでいく。まさに皆さんが学ぶ生徒総会と同じ流れである。このように組織に必要な要素を「人・もの・金」と例える人もいる。私は、中でも「人」が一番重要だと考えている。1960 年米国の第 35 代大統領 J.F. ケネディーは、米国と旧ソ連との核の使用へと緊張が高まっていた時代に、「人類共通の敵、圧制、貧困、疫病、そして戦争」そのものとの戦いを求めた。米国民に自己利益を越えて自分の国（組織）のために働きかけることを促し、こう言っている。あなたの国があなたに何ができるのではなく、あなたがあなたの国のために何ができるかを問うてほしい」と述べている。今は、どの組織も人手不足である。そして毎日の生活は、誰も皆忙しい。、ここにあげたような組織を心意気で長年支えるために、だれに強制されるわけでもなく、そこで活動している方々がいる事実がある。まさに「一隅を照らす国宝級の活動」と尊敬と感謝の念を抱かずには、いられない。美原中学校の生徒には、そこに働く意義を感じている大人がいることを忘れてほしくない。　　***※近日中に 2・3 年生におやじの会の募集を配布します。***